

明治三十二年四月

東京東便航路及航路  
調査報告  
件

外務省

3-2059

0123

多岐のり

明治四十四年四月二日

普通郵便



公第一九號

受第五三二一號

東亞汽船會社ノ船路ヲ義勇艦隊

ニシテ引受クルル也

新聞掲載

通商彙纂

通商彙纂  
第四拾年  
三月廿九日

當港々務局長ノ請ニヨリハ本國東亞  
汽船會社ハ元ト丁株汽船會社ト  
國政府トノ契約ニヨリ成立シ而シテ國政府  
ヨリ巨額ノ補助金ヲ受ケ東洋諸港間  
ノ定期航路ヲ開始シタルモノナリガ同會社  
今日マテノ事業ノ成績甚タ興平カラス且  
ツ外國汽船會社ニ政府ノ補助金ヲ給シ  
定期航路ヲ維持セシムルハ國家ノ体面上  
面白カラサル以テ早晩同會社ノ執

在浦潮港日本貿易事務館

レハ航路ハ本國義勇艦隊ニ於テ  
引受シテ本國義勇艦隊ニ於テ  
是近同會社ノ執リタル外國航路ノ義  
勇艦隊ニ於テ引受ケ之レカクテ外國  
速力ナキ船ヲ有スル汽船ヲ買入セシ  
ニ即チ有スル船ヲ買入セシメテ下  
捜索中ナリト云々  
右の如き船中進出器具  
明治四十四年四月二日  
在浦潮

0124

3-2059

125 (高)

外務大臣子爵野村董敬

貿易事務官野村基三



下之支ト右ハ何等ノ根據ヲ有セド徒前  
如ク事務ヲニ従事シ諸航路ヲ擴張  
シテ新ノ汽船十隻又ニ購置入ルル計  
畫ニ由サレハ同會社ノ航路ヲ我ニ勇  
艦隊ニ於テ引受ルルコトハ未ダ確定  
シタル事實ニ非サレカハ云々

全通商條約ノ本質ニ對シテ事務官

3-2059

0125

明治四十年四月廿三日

公第 三九號

六一四三

露國東亞汽船會社ノ航路ノ義勇艦隊ニ  
於テ引受クルノ件ニ関スル續報

露國東亞汽船會社ノ航路ノ露國義勇艦隊ニ  
於テ引受クルノ件ニ関シ本月二日付公第 一八九號  
ヲ以テ申進置キ其後右ノ聞ニ當地刊行ノ  
「リニ」ウオストック新聞ノ前報會社業務清  
算ノ義ハ何等ノ根拠ヲ有セス同會社ハ業務  
ヲ擴張シ諸航路ノ為メ新ニ汽船十隻ヲ購買ス  
ヘキ計畫ナル旨ノ正誤致テ左ノハ同會社ノ航  
路ヲ義勇艦隊ニ於テ引受クルコトハ未タ確定  
シタル事候ニカラサル様相考ヘラレ莫尚ホ本  
件ニ関シテ精査ノ上報告可致テ右申進候  
敬具

明治四十年四月十七日

在浦潮

貿易事務官 野村基信



外務大臣子爵林 董殿

通商三行  
基業三行  
年三行  
濟三行

記入濟

明治四十年四月廿日發受

管通商

公第一五二號  
露支極東外國航路  
受第一五四號

日曩、報告致至各露國東亞汽船會  
 社、支持セル外國航路ヲ露國義勇  
 船隊ニ引継クニトノ風説ニ對シ其後  
 新聞紙上ニ正謀文ヲ掲載シタルニ  
 外國航路引継ノ件ハ何等根拠ナキ  
 風説ニ止リ未タ確定シテ、事實  
 ナル者本月廿七日付公第一三九号ヲ以テ  
 申達置キ、昨廿五日發刊「ダリーニ」  
 ウオストツク新聞ニ掲載スルトコ  
 航路問題ニ関シ農工務次官ヲ會長  
 トシ同省内、開設シタル各省協議會ニ  
 於テ此程會議ヲ終リシタルカ同會、必  
 要ト認メタル航路大ニ如シ  
 一、南朝、敦賀線  
 二、南朝、釜山、長崎、上海線  
 三、南朝、ニエラ、エフスク線  
 右航路支持、希望者中、義勇船隊  
 最も有利ノ條件ヲ提供シ、初年ニハ  
 外國船雇入ノ權利ヲ留保シ補助  
 金九十五萬、留シ次々年ヨリ十年間ハ  
 平均一々年六十六萬五千、又々々  
 一線ハ每週二回、第二線ハ每週一回、  
 三線ハ航海期間十四回、航路ヲ支持

在浦潮港日本貿易事務館



117 商

加

スレト云フニアリ前野會議案ハ農工務大臣ノ承認ヲ経タル後一般立法ノ手續ヲ履ムレト云フ

要スルニ極東航路ハ前野記事ノ通リ何レ會社ニ於テ支持スルコト一丸キキ月下ノ交未定トナリ

右及報告ヲ敬具  
明治四十四年四月十六日

在浦留  
貿易事務官野村基信

外務大臣子爵小幡陸

追テ東亞汽船會社外國航路ノ川

在浦留日本貿易事務官

進ニ渡スル小幡ノ報告本邦諸新聞ニ掲載セラルニヨリ右ニ對スル正誤文本邦諸新聞ニ掲載方当地同會社支店ヨリ申込来リ右ニ對スル誤ニ関シテハ既ニ本省ニ報告済ナルヨリ右ニ對シテ本邦諸新聞ニ掲載セラルキ旨固ク是レモ原在在承認告成ニ由ルハ毎ク原在

明治四十年五月十七日

第七三三六號

〇

公第一七〇號

七三三六號

露國極東航路ニ関スル續報

露國極東航路問題ニ関シ農工務省内ニ各省協  
 議會ヲ開キタル際該航路支持、希望者中露國義  
 勇艦隊最モ有利ノ条件ヲ提供シタル趣、客月廿六日  
 付公第一五二号ヲ以テ報告致置矣。昨日奔列ター  
 リニ、ウオストック新聞ニ掲載スルところハ露國督  
 日十九日、大臣會議ニ於テ浦潮港ト清、韓、日本諸  
 港間及ヒ浦潮港ト里龍江畔ニコラーエフスク港間、定  
 期航路支持、為メ義勇艦隊ニ補助金下付ニ關スル  
 法律案ヲ帝國議會ニ提出スルコトニ決議シタル趣ニ  
 候

明治四十年五月十七日

在浦潮港日本貿易事務館

右ノ報告候敬具

明治四十年五月十日

在浦潮

貿易事務官 野村基信



外務大臣子爵 林 董 殿

文書課長

明治四十年五月十六日接受

明治四十年五月十六日  
同日  
五月十六日

通商局長

（署名）

内信者  
管船局長

露國極東航路ニ関スル件

四十年五月十七日記録編纂

外務省

露國極東航路問題ニ関シ農工務省内ニ各  
 省快談會ヲ開キ其際該航路支持ノ希望  
 者中露國義勇艦隊最有利ノ條件ヲ提供  
 シタル者ガ本月九日浦潮登刊「モーリー、ウチ  
 ストック」新案ノ掲載スルトヨリハ露國曆四月十九  
 日ノ大臣會議ニ於テ浦潮港ト清韓日本  
 諸港間及浦潮港ト黑龍江畔「ニコラエフスク」



港向ノ定期航路支持ノ為メ義勇艦隊ニ補  
助金下付ニ関ス法律案ヲ帝國議會ニ提出  
スルコトニ決議スルニ越テ以テ今般在浦潮野  
村印タル事秘書長ヨリ●般向之候條右ノ如ク  
及ク及ク轉報備中ノ進候也

外務省



明治四十年五月十四日

文書課

別紙

明治四十年五月十五日

通商局長代

圖

主紙

明治四十年五月十五日發送

機密送第 7 號

上臣

博通

西宮義勇艦隊博通  
支店長兼教員

外務省

五月十七日附貴信第一三九號

今夜海井知事

不取敢

高第本

次第

東通

博通

3-2059

0132

高紙甲第二七二號

和露國義勇艦隊浦沙支店長  
海軍備少将

テレンチエロフ

右に昨六日開城に浦沙ヨリ縣下  
敦賀港へ渡来シ同港汽船碇泊所、  
樓様等ヲ調査シテ、開ク處ニ依リハ  
該義勇艦隊ハ目下航海業ヲ管シ  
テ、アリ、今回渡来、用件ハ現今東亞汽  
船會社カ露國政府ヨリ補助金ヲ受  
ケ島敷間、航海ヲヤシク、パールモ同社ハ

四十年五月十七日、録同第...

外務省

該國、一大汽船會社ナルヲ以テ他國、  
會社ニ考テ、補助ヲ與ヘ、當航海業ニ當  
ラシムルハ、好ム處ニアラザルヨリ、而路曆六月  
廿日ヨリ義勇艦隊ニ進出セシメ、初航海ヲ  
開始セシ、豫定ナルヲ以テ同人ハ敦賀港  
ヲ視察、右同會社代理店梅田繁  
ヤルモ、ト同伴東港セシ、進出有之而メ  
該義勇艦隊ヲ當航海ニ當ラシムルコ  
トハ、刻下開會中、而露國議會會ハ豫  
義業ヲ提出シ、アリ、明年ヨリ十一年間  
継続シ、テ一十年六十万弗、補助ヲ與ヘ、  
計畫ヲ、ト、ト、同人ハ其通過ヲ希望シ

飛川模倣有之其地舉動上何等怪  
公ハキモリ色之全ク港灣視察ノおナ  
後事セシモト被察候  
右爲内務省及報告候也

明治二十年五月一日

福井縣知事 阪本鈞之助

内務大臣 原敬 殿

追テ本件ハ逕信大臣ニモ報告  
致置候ニ付右急添申候也

外務省

新報

第1617號

明治四十年六月廿四日發

普通新聞

第四六號

### 露國極東外國航路之開拓

露國之露曆四月十九日開議、大臣會議、於上海、彭港、天津、日本諸港間、及滿洲港、黑龍江、鴨綠江、二コラ、エフス、港間、之定期航路、支持、爲之、後來、露國、東亞、航路、會社、代之、爲之、義勇艦隊、補助、全下付、同、法律、策、議會、提出、之、ト、決議、シ、タル、五月十日、付、公、第、一、七、〇、號、信、以、テ、中、進、置、之、處、露、國、東、亞、航、路、會、社、之、本、月、以、テ、露、國、政、府、ト、初、次、約、定、期、

在滿洲日本貿易事務館

トナリ、露、港、航、路、航、路、如、キ、モ、明、白、出、港、ノ、バル、チ、カ、号、ヲ、以、テ、終、航、ト、ス、由、ニ、者、之、次、先、ハ、是、ヨリ、先、キ、東、亞、航、路、會、社、補、助、支、店、ノ、展、望、本、社、打、電、シ、政、府、ト、契、約、更、新、ノ、事、ヲ、向、合、ト、シ、モ、未、ク、何、等、ノ、回、答、接、ヒ、ス、義、勇、艦、隊、ニ、於、テ、モ、同、様、何、等、確、定、ノ、事、ヲ、從、テ、今、後、若、シ、日、艦、隊、於、テ、東、亞、航、路、會、社、ノ、業、務、ヲ、引、續、ク、モ、未、ク、否、ト、シ、船、船、ヲ、以、テ、航、路、ト、シ、テ、何、等、ノ、事、今、後、三、三、航、路、ニ、休、止、セ、サ、ル、ヲ、以、テ、一、キ、足、リ、ト、シ、各、店、多、ク、打、電、シ、テ、其、高、海、路、國、極、東、航、路、終、結、シ、補、助、金、ノ、支、出、同、ノ、帝、國、議、會、ノ、認、許、ヲ、要、ス、ル、次、第、ヲ、付、

目下議會解散トナリ各協會ニ於テ如何  
ナル方針ヲ以テ極東航路ヲ繼續スニキヤ  
船ヲ形勢ヲ注視スル要アリト有ル  
右及板告其 敬具

明治四十二年六月十八日

在浦潮

貿易事務支 野村至徳

外務大臣子爵林 董殿

在浦潮港日本貿易事務館

日本貿易事務館

次  
丁

6695

機密第五一號  
露國、極東外國航路、開スル件

露國ノ極東外國航路ニ關シテ露國政府ト  
東亞汽船會社トノ契約満期ト成ル  
ニ付テ今後同會社ノ業務ヲ露國政府  
船隊ニ於テ受ケントスル由ニ閣下ニ  
次ノ公信ヲ以テ及報告置キ奉リ  
船隊浦衝支店ハ右ノ開スル露國  
ヨリノ公電ニ據シテ昨廿七日  
ノ當地新聞紙上ニ於テ右ノ事實ヲ公  
表スルト共ニ露國東亞汽船會社ニ於  
テ支持シタル浦衝政府及上海官ノ航

在浦衝港日本貿易事務館

路ハ航路並ニ普者表共何等変更ヲ  
加ヘス前會社ノ船ヲ罷用シ浦衝ニ  
ラリエフスリ港向ノ航路ニ新ニ津  
ニシテ且ク以テ之ニ充テ其普者表  
龍江沿道諸港ノ便ヲ經テ普者表  
キラス廣告散布依テ小官ハ本日  
浦衝支配人 テレンチエラ 記  
路ニ關スル同船隊ノ將來ニ就キ  
多ク今回ハ何分突進ノ命  
ニ接シタルコト、テ急速ノ際未タ各  
充ツキ船船其他ノ船ヲ備蓄スル  
以テ不得止東亞汽船會社ノ使用  
私ヲ借入レ同會社ヲシテ義勇船隊ノ

管  
ノ  
ノ  
ノ



業務ヲ執ラレテ一時ヲ滿達ニ行ク  
 新造洋船ヲ以テ之ニ充ツル計畫ナリ  
 極東航線ニ對スル船隊ノ方針ニ對  
 督上海ノ二航線ヲ以テ西伯利鐵路ノ  
 急行列車ト確實ナル連絡ヲ保タルノ專  
 ラ務メニ對シ利便ヲ極メテ速クフルヤリ  
 尤ニ積荷ノ多寡若日本船舶トノ競争  
 ノ如キニ因テ中ニアルナシテ是ニ對  
 東亞洋船會社カ有レリト横濱神戶  
 ノ代理店ノ如キニ既ニ其必要ヲ認メサル  
 ヲ以テ本邦ニ於テハ學ニ效頓ニ於テ梅  
 田高橋長崎ニ於テギンスブルグヲ以テ代理  
 店トシタルノ如キニ政府ノ保護會同如キ  
 ニ至リテハ已ニ三新聞紙ニ於テ記載スル  
 所アリシモ当地支店ニ於テ未タ之ニ関  
 シ聞知スル所ナシ云々ト打テ語リテ  
 上述ノ如キ義勇船隊ハ今回突如政  
 府ノ命令ヲ受テ臨時ノ多量ヲ以テ義  
 勇船隊ノ名義ノ下ニ從前ノ東亞洋船  
 會社ヲ以テ一時其業務ヲ執ラシメリスガリ  
 ドモ一昨廿六日義勇船隊ノ第一回  
 航海トシテ敷板ニ向ツテ出帆スル  
 尚ホ本件ニ關シ東亞洋船會社代理店  
 ニ於テハ今回義勇船隊カ扶養及神  
 戶ニ代理店ヲ設ケサルニ對シ人々對シ  
 多大ノ不便ヲ與フルモノニテ其結果同

在浦潮港日本貿易事務館



會社ノ時代ニ比シ著シク積蓄ノ減少ヲ求  
レ久シカラズシテ同體隊モ其誤認ヲ若見  
スルニ至ルニ至リテ

極東ニ於ケル東亞氣和會社ノ將來ニ関  
シテ目下會社内部ニ於テモ熟慮中ニシテ  
未タ如何トモ明言致意スル由ニ存スル  
此及報告ヲ致具

明治四十二年六月廿八日

在浦潮

貿易事務官野村甚信



外務大臣子爵村岡 敬  
此ニ露王政府ト露帝陛下トノ契約

在浦潮港日本貿易事務館

書ハ近日ラレンタウニ送付スル答ニ付  
入手次第備譯可及進達スル由ニ  
中候々也

文書部  
明治四十年七月五日

明治四十年七月五日  
同 日起草  
日發遣

通商局長 代 閱  
主任



内田 謹 船長 宛  
通商局長

和路名極東航路ニ関スル  
件

外務省

和路名極東航路問題ニ関スル  
浦況 高 島 貿易 甲 路 有 報 告  
ノ 進 展 本 年 五 月 十 六 日 付 送 一 三 五  
号 付 心 行 内 報 及 置 込 正 兩 路 國 報  
亞 淡 航 路 會 社 八 号 月 付 心 行 兩 路 名  
政 府 上 契 切 滿 期 上 行 浦 況 報 告  
号 報 告 如 下 五 同 月 廿 日 出 港 一 日 八 日 付 心 行

3-2059

0140

号ヲ以テ終航トス由ニシテ是ヨリ先  
 東亞汽船会社浦<sup>横</sup>ノ店ハ屬  
 々本社ヲ打電シ政府ト、契約更新  
 常一ヲ同存セタルニ未ダ何等向答  
 二梅也<sup>不</sup>ノ親<sup>買</sup>船隊ニ於テモ口様何  
 等確着ヲ得不<sup>得</sup>ツテ今後ノ差<sup>同</sup>  
 船隊ニ於テ東亞汽船会社ノ業  
 務省  
 孫ヲ引継<sup>グ</sup>モ未ダ適當ナル船<sup>船</sup>  
 得<sup>カ</sup>ニ越<sup>ニ</sup>テ其分ニテハ何レ今後二三航  
 海ハ休止セ<sup>カ</sup>ルヲ得<sup>カ</sup>ルベキ見<sup>出</sup>ル旨  
 員ハ諸<sup>ノ</sup>居<sup>ル</sup>越<sup>テ</sup>ノ貿易ノ事  
 務官ヲ報告<sup>ス</sup>存<sup>シ</sup>テ未<sup>ダ</sup>向答<sup>ス</sup>  
 考<sup>古</sup>及<sup>古</sup>也<sup>也</sup>



文書録

明治四十年七月十一日

明治四十年 七月 九日起  
八月 二日發達

明治四十年七月十一日發達

次官 通商局長代 閱

主任

機密

通信者

機密送第 號

石井局長

露玉極東航路、開る件

西曆一千九百零九年七月二十六日

外務省

露玉極東航路、開る件

露玉極東航路、開る件、露玉政府トノ契約

期召滿期トナリタニ東亞海航會社ノ業

務ハ今回露玉戰勇船隊ト於テ引受クルコ

トトナリ先越ヲ以テ、今船隊ノ將素ノ計

畫ニ關シ別紙ノ通リ、左ノ商標船員易子

各ニ官ヲ報通有之、以テ茲ニ申集セ

此別紙供覽、覽以テ、申集、申集、

當局へ申込候旨成文也

別紙、捕獲未機表第五号表添付す

外務省

3-2059

0143

大

第 244  
1897

明治四十年七月二十六日午後

秘管監第四四號

明治四十年七月十五日

外務省通商局長石井菊次郎殿

回答

本月十一日付機密第一號ヲ以テ回送相  
成候露國極東航路ニ關スル書類濟  
ニ付及返戻候

四十年七月廿三日記録編纂

選 信 省

外務省通商局長石井菊次郎殿

3-2059

0144

原復

通内第掲

加藤

官報

十月官報掲載

明治二十八年八月十二日

公事

船東、於て、其、船、隊、航、路、開、始

に、関、す、件

往來露米東亞航路、經營に、來り、た、ん、  
浦潮、高、野、同、航、路、及、浦、潮、長、崎、上、海、向、  
航、路、の、今、回、の、航、路、開、始、に、於、て、引、度、の、理、由、ハ、  
露、米、政、府、の、該、航、路、に、對、し、東、亞、航、路、航、路、航、路、に、  
附、し、來、り、た、ん、保、護、を、與、へ、る、事、に、由、り、  
果、こ、し、目、下、の、航、路、開、始、に、於、て、該、航、路、の、使、用、  
を、之、に、適、合、と、見、て、三、四、十、噸、の、中、形、の、航、路、船、を、有、セ、ル、に、  
已、之、し、ハ、實、入、又、ハ、建、造、に、資、金、を、充、て、ん、に、  
亞、細、航、路、航、路、に、於、て、使、用、し、來、り、た、ん、船、船、の、使、入、し、  
該、航、路、の、結、核、を、管、理、す、に、  
右、及、報、告、を、具、す、  
明治二十八年八月十二日

在、オ、テ、カ、サ

副、領、事、 福、田、直、彦

外、務、大、臣、子、爵、林、 董、毅



4.30

明治四十年九月十日接受

信管 第五号

明治四十年九月九日  
信管 第四七卷二號

一三九六三

逓信省管郵局長内田嘉吉



外務省通商局長名井菊次郎殿

露國義勇艦隊ハ今回敦賀浦迄新  
徳固航路ヲ汽船數隻ヲ以テ週日  
二回定期航海シ且貨物運賃ヲ  
一布度ニ付六割引下ルニ有之候  
處右事實示レ何等貴局ハ情報ヲ無  
之候哉 謹致之度候

逓 信 省

才之松石...

逓信省管郵局長内田嘉吉



明治四十年九月十四日接受

明治軍年九月十日  
日起草  
日發遣

通商局長

主任

大臣

送第 三九 號

南洋王義勇艦隊  
等  
外務省

南洋王義勇艦隊ハ今回敷  
南極斯德向航所ハ境航即  
以之因二回ハ定期航海ヲ  
貨物運賃ヲ一布度減價  
引下クハ超々事案ナリ  
中通信省官航局長ヨリ  
有之矣

五週は日報  
カキコト

外務省

3-2059

0148

通商局長

明治四十年九月十四日接受

78

明治四十年九月十三日起草  
同日發遣

朱

通商局長

主任

中書通商局長

内田外務省通商局長宛  
神戶商會事務局長宛

送附  
一四一號

義勇艦隊運賃三丹

五圓五分

外務省

九月九日附發義勇艦隊運賃三丹

義勇艦隊運賃引下ノ件ニ關シテ

ハ本報詳細ノ報告ニ基キテトシ

提出スル立補遺留ノ事ニ對シテ

本年秋期東西後航會社ニ

對シテ報告スルニ義勇艦隊以本

約内了候其業務ヲ継承之為  
 船船ヲ使用之テ一週二回定期航  
 航シ用如ク之キ与記載之ノ各  
 運賃又東亞ノ在之鐵道運賃  
 上同様現行運賃率多ク一般低  
 率十九年<sup>運賃</sup>採用之<sup>旨</sup>去る月  
 十五日開會、運賃率調査委員  
 員會ヲ於テ議了<sup>外務省</sup>附記  
 據此ハ一ノトニ<sup>新</sup>ニ<sup>採</sup>取  
 云ノ議、<sup>案</sup>之<sup>ヲ</sup>未<sup>キ</sup>由<sup>由</sup>報  
 告<sup>ス</sup>早<sup>速</sup>同<sup>旨</sup>也<sup>ニ</sup>由<sup>由</sup>  
 報<sup>告</sup>矣  
 在<sup>海</sup>運<sup>事</sup>務<sup>局</sup>

左<sup>ノ</sup>如<sup>ク</sup>報<sup>告</sup>同<sup>旨</sup>也<sup>ニ</sup>由<sup>由</sup>



臺灣  
臺北

明治四十年九月十四日發遣

明治四十年九月十五日  
日起草  
同月十五日發遣

通商局長

主任

送附  
五十四

中村通商局長

內閣官船局長

檢東ニ於テハ  
取寄船海  
航路開拓ニ  
關スル件

外務省

從來南洋各島航路會社、經營ニ來リテハ  
浦潮、教員間、航路及浦潮長崎上海間、航路  
ヲ今回教員船海ニ於テ引渡シテ理由ニテ  
政府ハ該航路之利益及南洋航路會社ニ下付  
事ヲ先傳被置リ今回教員船海ニ先ニ該  
事ニ関下教員船海ニ於テ、該航路ニ使用スル  
者方三四千噸ノ中流航路ノ取リ合ハシテ、



の要入又建造の爲手長に爲りて在りて  
船字に於て供用しぬるは船の住人の該船  
路に建てるは之の旨に於て由はオテウ  
帝に御事多かりきと云ふ事ありて  
乃也

外務省

通商彙纂

新聞掲載

通商彙纂  
第九冊  
第四冊

要領

82

公第三八〇  
 航路開極東興業汽船會社  
 航路開スル件

暹羅、浦潮、東察加、オホットスク間航  
 路開始、目的ヲ以テ当地ニ新設セラ  
 レタル露國極東興業汽船會社ニ  
 開シテハ豫テ本年五月申末度、公信  
 ラ以テ及報告置ケル所ニ有テ其後  
 同會社ニ使用船舶者看表貸金共  
 開シテ多少其豫定者更ニ其初ノ  
 會社所屬ノ汽船「ドネー」アル号「エ  
 ニセイ」号及「ウスリー」号、三隻ヲ以テ換

在浦潮港日本貿易事務館

航路開スル所ナリレカ都合ニ據リ汽船  
 「ドネー」アル号「エニセイ」アル号ヲ以  
 テ其出帆期日ハ豫定ヨリモ一週日遅  
 レテ我ハ八月二十五日、館經由東察加  
 向ヘリ同船ガ汽船解纜前妻子女子ヲ携  
 帶シテ歐露ヨリ来レル百者十名、移住  
 民ハ海岸ニ天幕ヲ張リ此ノ内ニ起居シ  
 棄船準備ヲ為シ居リ棄船大部ハ  
 ハ右移住民ニシテ東察加向ヘリ他一部  
 カ普通通棄客ニシテ東察加沿岸ホ  
 トスル海沿岸視察者ナリ  
 汽船「エニセイ」号我カ八月三十一日  
 港解纜ノ際ナリシモ棄客及荷物搭



載ノ申込者多クナリモ爲ノ出帆ハ五日百  
 延期トナリ越エテ九月五日出帆スルコト、  
 ナリシカ其前日迄ニ棄船申込者ハ百名  
 以上ニ達スリ是等棄船ノ多クハ有ホ  
 ヲトスリシ海「アヤシ」港行ノモノニシテ同地  
 方ニテ越年ニ採金事業ニ従事スル者  
 ナリト云フ而シテ同日棄船者携帶品  
 物ノ甚多量規定以上ナリシテ以テ一時出港  
 ラ差止ラレタルカ其総重量約十七万四千四百  
 斤(四〇〇〇〇〇布度)ニ上リ食糧糧及金  
 鑛採掘用諸機械等其重トモナリト云フ  
 前記浦潮、東察加オホツトスク間一航  
 海ノ日約三ヶ月オホツトスル海「アヤシ」  
 港迄ニケケ半ヲ要ス

在浦潮港日本貿易事務館

本年最終ノ航海ニ向フハキ氣船「ウズ  
 リ」止号ニ當港ヨリ出帆見合、豫定ナ  
 リト云フ

今在ニ該航路ニ於ケル各港及ヒ東察加  
 諸港者ノ棄船負債金表ヲ掲ケ奉考  
 資セン

白令	一等	二等
トロバロフスク	四〇百	八五哥
アヤシ	五三	八五
アヤシ	七六	三五
アヤシ	八一	一五
アヤシ	八七	七五
アヤシ	二九	二五





テジエネフ 八九五五、二九、八五、  
 但シ食料ニ向テ自弁トス  
 又同ク処ニ據レハ九月五日島港出帆ノエニ  
 セイ号ハテラフアセル氏ノ一団体オホツト  
 スル海ノアヤニ港ニ向テ出發セル由ナルカ同  
 団体出發ノ目的ハアヤニ港附近ノオ  
 ホツトスル海岬岸ニ於ケル金鑛發見  
 爲メナリト云フ又同一行ニ同時ニ多量糧  
 食ト機械類ヲ携帶セシカ右ニテヨリ十  
 年前(一八九七)一八九九年露國官憲ヨ  
 リ派遣セラレタルボグダノウイツチ技師一  
 行ガ當時調査セルヲタリル河岬岸  
 ノ金鑛調査ニ從事スル爲メナリト云フ同  
 在浦湖港日本貿易事務館  
 河流域ハ往時「ニコラーエフス」附近ヨリ  
 來レル所謂山師連カ採金ニ着手ス  
 後「ココロウイン」及「バソフ」兩氏ノ經營  
 スル処トナリテ續キ現今ハ「フレセル」  
 氏所屬地トナリ同氏約四十名ノ鑛  
 夫ヲ使用シ經營シツテアリ其他「ラシタール  
 河」注入スル「バイケヤキ」山小湖ニ沿ハル  
 処ニ「エリツオ」及「レワーシエ」兩社ナル  
 モノアリテ鑛夫約五十名ヲ使用シ其業  
 ニ從事スル外ガ業者ノ「ホテルモノ」内ニ「ハ  
 ヤルコ」會社「ボホ」等アリ何レモ鑛夫  
 十名以下ヲ使用セルノミ  
 又興業船會社「ハ」島港及「アヤ」シ



85 通

港向良糧一布(四等)倉百六十(分)二付  
一箇五十二哥宛ノ運賃ヲ棄客ヨリ申  
請クルコトト爲リ居レルモ毛皮類ノ如ク割合  
高價ノ品物ハ一布僅カニ三十哥ノ割合ニ  
テ輸送ヲシ受クベキコトモ其筋ヨリ規程ニ  
ルニ付右運賃ヲ上方ニ附シ其筋工精秩  
中ナリト云フ

右在来考及及報告ノ 敬具

明治四十年九月九日

在浦潮斯德

帝國貿易事務野村基



在浦潮港日本貿易事務館

外務大臣子爵林董殿

新花載  
通

通商  
船

高

明治四十年九月廿五日



公第一〇  
受第一四〇五二號

義勇艦隊汽船上海浦潮間  
直航之件

目下清國上海に於て傳染病流行ノ爲メ同地出帆ノ船舶ハ長崎寄港ノ際同港に於て檢疫ノ爲メ五日間停船ヲ命セラルヲ以テ義勇艦隊當地支店長タルコレンケヲ以テ少將ハ浦潮(長崎強由)上海間ヲ往復スル同社所屬急行汽船ハ亦歸路長崎寄港スルコトヲ廢止上海浦潮間ヲ直航スルコトニ決定レバ前記

在浦潮港日本貿易事務節

海ヨリ之ヲ實施シタリ

右内容考査及報告候致具

明治四十年九月十六日

在浦潮 斯德

領事 野村甚



外務大臣子爵林董殿

郵船  
船名  
船種  
船名  
船種

明治三十四年十一月  
五九  
露西亞汽船会社新航路開始  
六九三四號

小文ッ路ノト

通商景慕

折返ノ意ト  
新聞掲載

高  
14  
2

露西亞汽船会社新航路開始  
本海及日清各港間、航路業、對し銳意計  
畫之、所ノ、露西亞報章レ、所々々、本年六月  
、露西亞東亞汽船会社ヲ維持シ、露西亞海峽  
船會同、浦潮、上海間、定期航路ト、露西亞汽船  
隊ヲ、担任スルコト、ナリ、而シテ、東亞汽船會  
社、今、更ニ、浦潮、神戶、橫濱、長崎、漢口間  
、定期航路ヲ開始シ、近日汽船、バルチカ等  
ヲ以テ、其航路ニ充テ、司業スルニ、趣キ有也  
在浦潮港日本貿易事務館

浦潮港	敦賀間	上海間 (長崎経由)	未定	極東汽船会社
	每週往復二回	每週一回		
	五月三回			
	本邦汽船ハ往復スル航路ニ、ナリ			

浦潮港 致賀回 毎週一回 大阪商船会社  
 神戶回 毎日二回 日本郵船会社  
 小樽回(船隻) 大阪商船会社  
 大、外日露露雨不トモ不定期航路ニシテ、当港東洋  
 諸港回リ往復スルモノ動カサルモ、之レハ暫ク措キ  
 前記露不定期航路ノ選擇如何ハ大ニ當世者  
 ノ注意ニ値ルキコト、信々、歐洲及東洋回航  
 毛速達シ要スル郵便物及旅客、露不義  
 軍艦隊等之レハ輸送、任レ政重費通  
 西伯利鐵道ノ効能ヲ發揮シテ遺憾ナリ又左  
 マリ速達シ要スル貨物即チ露不義軍艦隊  
 中歐露及西伯利、輸送スルキ露不義軍艦隊  
 輸ノ方々特ニ漢口、寧波、上海、天津、青島、  
 營口、貝子、岫巖、遼州、穀物ノ輸出ハ其需要  
 地ハ在邦ニシテ特ニ京阪地方及關西地方ハ  
 其大得意先ナル故ニ該地方ニ接近スル神  
 戶港ニ寄港スル如キ露不義軍艦隊航路  
 レテ新設航路ヲ露不義軍艦隊航路ト相  
 待テ東洋ニ於テ露不義軍艦隊航路ニ寄  
 港ヤレムトスルノ跡歴々著クモアリ且製  
 業ノ露不義軍艦隊航路ニ寄港ヤレムトスル  
 露不義軍艦隊航路ニ寄港ヤレムトスル  
 輸送高凡ソ三百万布度ニ達シ之レハ輸送  
 ニ関レテ東清鐵道及西伯利鐵道、露不義  
 軍艦隊、東亞汽船会社、露不義軍艦隊、貿易會

在浦潮港日本貿易事務館



了

社及世方海船会社ト特約シテ清産製茶  
 社トシテ特約引運賃ノ規定スル等故ニ本  
 製茶ノ如キニ元來各船ノ劣等ナルニ加  
 海運上ノ前記ノ如キ特約シテ各船ヲ以テ  
 底端ノ産製茶ト競争シ能ハサルニ思ヒモ  
 キ通運ナリトス故ニ本邦商人ニシテ本邦製  
 茶ト對シテモ大運賃輕減ノ思存心ニ浴セシメ  
 ムトシ東清鐵道会社ニ交渉スル所アリ小友  
 其間ニ立テ韓旋スル所アリモ本邦製茶  
 ノ特約ニ係ルモノニシテ而カモ積載スル港上  
 海運口ニシテハボルゴロニホカリカクタニ限  
 リ本邦諸港ニ於テ積載ヤサルニ規定ナル  
 シ以テ東清鐵道会社ニ満足ナル回答ヲ吐ケス  
 願ルニ遺憾ナリトス夫レ斯ノ如ク吾等ハ於テ  
 海ニ於テ交通機關相助ケテ其各運路期  
 今回新設ノ吾等東亞海船会社ノ新航路  
 ノ如キ諸事ニ適レタル有利ナル航路ト  
 存スル事ニ前記ノ如ク東洋ニ於テ吾等  
 船会社ト近東各其事業ヲ擴張スル日  
 本郵船会社ト大阪商船会社等宜ナル  
 本邦運運業者ニシテ各地ニ關係  
 ヲ有スルモノ一日モ吾等スレカラス業ト被  
 存候

大正四年十月廿六日  
 在浦朝

在浦朝日本貿易事務館



明治四十年十一月廿六日發

通商

後本

郵船

在洋操

2し

1時

通商彙纂

通商彙纂  
拾年  
二毛  
拾年

高  
4/14

公第八六號

東亞汽船会社航路件

露不東亞汽船会社今用新、当港神戶

横濱、上海、漢口間に航路ヲ開キ、

十月廿七日、公船五九号ヲ以テ、

室、其父、大航路、使用ス、

父ハルカカリスホルド、二隻、コレテ、

日ハ表ノ通ニシテ、

露不東亞汽船会社浦潮港、横濱、神戶、

長崎、上海間冬期貨物運搬航路表

浦潮港より日各港及上海へ 上海より長崎經由浦潮港へ

在浦潮港日本貿易事務館

千九百零七年	千九百零七年
十一月廿六	十一月廿九
十二月五	十一月廿三
十二月廿	十二月九
千九百零八年	千九百零八年
一月四	一月九
一月廿	一月廿三
二月四	二月九
二月廿	二月廿二
三月四	三月十
三月廿	三月廿三

但三月日一迄ヲ新曆ニ換ル



高

本信牛年水事... 報年... 本航路...  
 全ク貨物運搬ヲ以テ其主眼点トスル  
 モノニシテ航海費用ノ如ク時ニ一ク節約セリ  
 トシ各港ヨリ神戸横濱ニ向ク... 並  
 通本邦瀬戸内ノ航路ニシテ東運汽船會  
 社... 航路ニシテ水先繁栄ノ西  
 航路ノ全大考ヲ考料レ其航路ヲ津輕海  
 峽ヲ経テ横濱ニ差向ケタル由ニ... 及  
 今後モ往航ニ此航路ヲ採ルハキヤ不  
 可ナシトモ其経費前約上ニ考慮ヲ費  
 ヤルハ此一事ニシテカナル存案又  
 本月廿五... 廿七... 以テ報年... 如東  
 清鐵道會社... 東運汽船會社ノ維持スル  
 在浦潮港日本貿易事務館  
 本航路、對シ穀物運搬上特別率ヲ適用  
 スルキ等、前外尚ホ兩會社同、穀類運  
 搬上自然生息ノキ減價ノ七公シ一定ス  
 ル義ニ付協議運ラサルタメ自然協定運  
 賃率ニ未タ實行ノ運ニ至ラサルヤ、同  
 及...  
 又... 船隊ノ浦潮... 貨問及浦  
 潮... 上... 所謂外航路ナル運業  
 會社... 社... 支... 人...  
 當ラシメ而シテ業... 船隊支... 長...  
 海軍少將... 内... 内... 港... 才...







高

前

彼得僅同航路ヲ經合公(洞)漕其業ヲ管ハキ方  
計ヲ更リ先(越)橋ハ其方計(更)更ニ  
同業ハ信(越)何(承)意スル能ハルモ露不  
方(東)海(航)業ニ對シ益(實)前用(海)業  
セムトスル(跡)以(充)分(者)取(得)ラハ(一)月(前)  
社(存)候  
大(報)告(致)シ(候)致(具)  
明治(十)年(十)月(九)日  
右(浦)副  
領(事) 野(村) 甚(信)

領事 野村甚信

外務大臣 野村甚信

其(可)世(業)ノ(一)部(分)ヲ(托)シ(タ)ル(事)ニ(對)シ  
ハ(昨)々(チ)ハ(二)子(ノ)電(報)ヲ(以)テ(報(告)致(す)  
シ(運)キ(度) (云々)

在浦副日本領事野村甚信

要旨

通商景慕

新聞掲載

通商景慕  
拾商景慕  
濟野年景慕

139 高

公第一二九號

極東汽船会社近海航路ニ関スル

件

(先ニ報告セシ如ク) 本年本誌才ニ号参照

極東汽船会社近海航路ノ件ニ関シテ案  
 月二十日付中九一號ノ以テ申進案  
 外目下既ニ嚴寒ノ期節トナリ海  
 上ノ風浪険悪殊ニ彼得大帝灣ニ於テ氷  
 結シ急遽ノ積雪ノ上陸者ニ荷物積下極  
 メテ困難ニシテ航路ノ豫定時間以上  
 延滞セシメ荷物ノ交付延期ニ至ル  
 事被ルニキリ以テ彼得大帝灣ノ定期航  
 路ニ夫員辭職ニシテ積雪ノ急降ニ荷  
 物ノ積卸ニ遅支ナキ日ニ限リ南潮出帆  
 毎週日曜日前七時トシ途中ノカイタ  
 川ノ寄港ノ上ノホットカ港ニ向ヒ同火  
 曜日午後七時浦潮ニ帰港シ又浦潮ナ  
 シエツト間ニ毎週木曜日午前寄港出帆同  
 土曜日午前八時浦潮ニ帰港スルコトヤリ  
 右ノ参考迄及報告候取具

西曆一九一三年六月

在浦潮日本貿易事務館

在浦潮

野村 甘彦

外務大臣御計 林 實彦

139 143

明治三十四年十一月二十七日

明治三十四年十一月二十七日 廿七 日 發 送

通商局長 代 閱

海軍省 圖書 整理 印

三〇五

中書省 遞行 志 曾 航 后 長 史

會 北 之 自 己 一 等 官 某 代 記 人 之 航 路 志

見 中

外務省

兩 路 名 東 亞 航 船 有 限 公 司 航 路 志 義 勇

船 隊 之 始 末 引 受 之 件 三 等 已 在 記 一 函 中

立 浦 況 希 志 船 子 航 路 志 有 志 者 付

以 如 此 函 中 之 事 也

虎 次

軍 官 青 井 君 立 浦 航 路 志 不 似 日 報 者 也

兩 路 名 東 亞 航 船 有 限 公 司 航 路 志 義 勇

3-2059

0166

海軍省に自己、事業代理人として  
海軍省及び海軍省、海軍省、海軍省  
海軍省、海軍省、海軍省、海軍省

外務省

3-2059

0167

文書課長

竹尾

明治四十年十月二日

別紙

明治四十年十月二日 起草 山

通商局長

主任

明治四十年十月二日

印

機密

機密送第3の2號

中村局長

逓信省通商局長

314

南洋通商船務局長  
支那通商船務局長

外務省

今回露島義勇艦隊、業務擴張、更に在  
浦津等島領事より、函、函、報告あり、  
為り多し、及至、海軍省、中、用、海、島、出、展  
表、白、出、し、也

支那通商船務局長

明治四十一年一月二十三日

公第三一號

第二五〇四

東亞汽船株式會社新航路開始開航ノ件

通商事務  
通知  
131

露國東亞汽船會社、往來汽船「バルク」カレ号、「サピヨール」ニクシ号、「アジヤ」号、「三隻」ヲ以テ浦添、横濱、神戸、門司、及上海諸港、定期航路ヲ繼續シ、米、リシカ、以、同、航、路、會、社、於、右、外、曩、當、港、ヨリ、オ、テ、ソ、レ、向、ハ、ル、ク、ニ、ヤシ号、ノ、航、路、ヲ、俟、テ、汽、船、二、隻、ヲ、使、用、シ、新、嘉、坡、及、暹、羅、諸、港、向、之、定、期、航、路、ヲ、開、始、ス、ル、計、

在浦添港日本貿易事務船

畫アリト云フ

別取敢及校告ハ、敬具  
明治四十一年一月二十三日

在浦添

領事 野村基信



外務大臣伯爵林董殿

文書部長

明治四十一年二月十四日

淨書 校正 之

明治四十一年二月十四日  
同日發

張方

主任

通高局長

代閱

要書

送第

送第 四五

逋信省

石井通高局長

内田長船局長

東亞汽船會社新航路案

関云風紙一件

明治四十一年二月十七日

外務省

露國東亞汽船會社、於下浦船口口案商、

新航路開張、計畫アル件ニ関シ今般立浦

潮帝國領事より別紙ノ通り報告あり、

付右ノ旨、及テ通知、以テ各事、查、寛大、事、

収中、也、也

(如功分、三、一、号、字、係、件、ノ、コト)





野田、於ケル浦地斯依ト津韓各日本  
 諸港間ノ航路補助金并ニ津地斯依港  
 ト尼古東島斯支間及津地斯依港ト引  
 出リスル海運補助金下附ニ同スル向野  
 定期航路補助金下附ニ同スル向野ハ  
 該會用款以東政府之ヲ該會ニ提出シ  
 上下兩院ノ協議ヲ求メテ該會ニ提出シ  
 野田ノ手續ヲ要スルコトナレリ尤  
 モカ一該會ハ千九百零六年四月二十七  
 日同會セシメシムルヲ以テ同年度ニ於  
 ケル右航路補助金同額ハ該會ノ協議  
 シ要セシメテ同例ニ依リ其前ノ政  
 府自ラ單議ニテ之ヲ決定シタリ然レ  
 一千九百零七年以後ハ於テ同例依  
 ハ該會ニ提出セラルベシ  
 千九百零六年度ニ於テハ津地斯依港ト  
 津韓各日本諸港間ノ航路補助金并ニ  
 津地斯依港ト尼古東島斯支間ノ航  
 路補助金ハ七五〇、〇〇〇圓ニテ同  
 年度ニ於ケル定期ノ義務航海ハ同  
 本國汽船會社之ヲ行ヒタリモ同會  
 社ハ同航路ニ関シハ支償ツヨリシハ  
 又少カシサレバ損失ヲ求メシク之カ原  
 因ハ新航路ノ利弊ノ際ニテ豫見セサル  
 費用算カリ止カガメナリシガ

野田  
 皇清  
 海軍  
 部  
 印



3 (20)

二スレカシカレルヲ以テ高工費者ハ内  
 國ノ同意ヲ經テ結案ノ措法ヲ執レシ  
 至リシ  
 如上浦拉斯依港ハ清韓及日本諸港  
 等ニ浦拉斯依港ニ東島新支川定期航  
 海ハ十九年六月年度ニアリテハ東亞航  
 船会社之カ多額航海ヲ行ヒシトモ  
 同会社ハ政府ニ命ジテ神戶金ノ増加  
 シ要求シ来リレラリテ政府ハ同会社  
 トノ契約満期ノ到来ヲ機レシ之カ契  
 約ヲ解キ十九年七月年度ニ於テハ之ヲ  
 義勇船隊ト契約レテ行ハレレルコト  
 同船隊ニ對シテ政府ハ同年六月十  
 五日ヨリ向フ一十一年間七二五〇〇〇  
 兩ヲ船隊ニ下附スル外更ニ臨時ニ二  
 〇〇〇〇〇兩ヲ補助スルコトレシタ  
 リ  
 又浦拉斯依港ハ司ホリスレシガハ一  
 年ニ海防港間ノ定期航海ハ十九年六  
 年度ニアリテハ同船隊会社ニ行  
 ハレタリシモ十九年七月年度ニ於テハ  
 船東航海會之ヲ行ハシメタリテ  
 之カ神戶金ハ二〇〇〇〇〇兩シ  
 テ其之カ条件ハ同年五月一カヨリ期  
 航間ハ航海費ヲ二万三千マイルノ航  
 運ヲ存行スルニセリレトシフ

在朝鮮本公使館用

4 (2)

以上ハ同年度ニ於ケル絶東内外航路  
 定期航法ニ因スル雷回政存庫外金下  
 附ノ一課ニシテ其後政府ハ本年春右  
 航路庫外費ニ因レテ國務ヲ凝ラシテ立案  
 スルニアリ昨年十二月一カカ三課合  
 成立スルニテ同月十五日高工部者ハ同  
 法案ヲ議合ニ提出シタリ  
 本年一月十六日下院ニ於ケル財政委  
 員會ハ同法案ノ審査ヲ始メ同日二十日  
 同委員會ハ海防新條約ヲ訂結シ  
 海防新條約ニシテ海防定期航法補  
 助及海防新條約ニ古未島斯克同航法  
 補助金ニ下附同條ノ二件審査シテ之  
 同案ヲ与ヘシリ  
 海防新條約ハ清韓兩國本港定期  
 航法費補助ノ件ハ未ク委員會ノ審査  
 ヲ終フルニ至ラナクモ同委員會ハ  
 不日之ヲ審査シテ再審査同案ヲ与フ  
 ルナレシ  
 海防新條約ヲキトスル海防定期  
 航法費補助ニシテ定期航法補助  
 費際算ハ二三六〇〇〇〇〇ニシテ又海  
 防新條約ニ古未島斯克同定期航法補  
 助費際算ハ七五〇〇〇〇〇〇ニシテ海防  
 新條約ハ清韓兩國本港定期航法  
 補助費際算ハ未ク公報之ヲ添ラス

在朝日本公使館用

(3)

至  
う  
又

在  
獨  
日  
本  
公  
使  
館  
用

3-2059

0176

文書目録

明治四十一年三月十二日

66

浄書

原

田

明治四十一年三月十二日  
同 年三月十二日 起 草 島田

主任 田

通商局長

代 覽

七〇

船舶局長

宛 岩田

石井局長

大阪商船會社社長

絶東露領内外航路定期航海補助費

問題之関スル報告ノ件

外務省

絶東露領内外航路定期航海補助費問題ニ

関シ今般在露帝國特命全權公使ヨリ報告有

之矣ニ付為御参考ニ本局南洋事務局長(右)寫

茲ニ及戻付矣余(中)者南洋相成度狀段申進

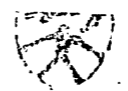
ニ矣也

(送才十六辨出書手印宛添付ノ)

14



114  
214



運第 第一一六號

第 四九四四 號

本月十三日付ヲ以テ 絶東露領内外航路航海  
補助費問題ニ関スル在露帝國特命全權  
公使ヲ報告書寫臺部 佈下付被成下  
正ニ落掌 難有御禮申上共也

明治四十年三月



中橋徳五郎

外務省通商局長 石井為次郎殿

同十一至三月廿六日迄發送

大阪商船株式會社

3-2059

0178



通商  
手帳  
第八  
年

通商  
手帳  
第八  
年

177

公第一四號  
黑龍江貝爾湖シナ河  
定期航路ニ用ル件

露國政府ハ三月十六日黑龍江流域  
貝爾湖及シナ河ニ於ケル汽船  
定期航路繼續ノ爲メ航海獎勵  
保護金交付ノ件ニ關シ露國上院及  
國民議會ヲ通過シ皇帝ノ裁可ヲ  
經タル左記法律ヲ發布セリ  
黑龍江定期航路

千八百九十八年三月十七日ヲ以テ露國商  
工務省ノ黑龍江汽船商業株式會  
社ト締結セル契約ノ追加條項トシテ同航  
船會社ヲシテ次ノ條件ニ依リ黑龍江流  
域ノ定期航路ヲ繼續セシメシカ爲メ同航  
船會社ト契約スヘキ一切ノ權限ヲ逋信  
大臣ニ委任スルコト

イ千九百零八年年度ニ於テ郵便物旅客輸  
送ノ定期航海ノ爲メ黑龍江及  
シナ河カ河ノ航海開始期ヲ終  
了期ニ至ルマテ一ノ五ニシテニコラエフス  
外ハ兩地各(三〇五五露里ニ分一)ヲ毎  
五日一回ノ割合ニテ定期航路ヲ繼續  
スヘシ但シ右兩地各往復一回ヲ以テ一  
航路トシ合計三十航路其里程十八

芳三千三百三十露里トス  
 以前項記載ノ定期航路及ヒ千八百九十  
 八年三月十七日條約ノ條項ヲ復リス  
 ルニ於テハ政府ハ黒龍江汽船商業  
 株式會社ニ對シテ千九百八年度ニ於テ航  
 海獎勵保護金トシテ黒龍江汽船  
 兩河航海ノ里程ニ應レ毎一露里ニ  
 廿キ一留三十キ哥死ヲ國庫ヨリ交付  
 スヘシ  
 又同項規定ノストレケエンスクニコラエフ  
 スク兩地間毎一露里ニハ一留三十キ  
 哥死ノ割ニテ三十航路ニ對シ國庫  
 ヨリ支給スヘキ航海獎勵保護金ハ  
在浦潮港日本貿易事務館  
 一ヶ年總額二十五萬留ヲ起スエカラス  
 ハ黒龍江沿道總督ハ全境船會徒  
 期航路表認可ニ際シハハラスクニコ  
 ラエフス兩地間往復航路ニ限リ契  
 約ニ規定セル往復航路中ノ汽船定  
 繫時百二十八時百ヲ除キ航行時百  
 ラ増延シ得ヘキ權限ヲ有ス  
 ニハハラスクニコラエフス兩地間航路ニ  
 於テ同汽船會社ハトロイウコエウエル  
 フネタルホフスエト及ヒマリンスクニ村ノ  
 黒龍江沿岸ハ汽船定繫場ニ汽  
 船ト陸上トノ接續ヲ為シ浮棧橋ノ設  
 備ヲナスヘシ



本同汽船会社カ汽船定數ヲ爲ス必要  
 ナル昇降梯子ヲ設備スル地点開  
 シテ八同會社ハ黒龍江流域水路部  
 ト協議シ總督ノ認可ヲ受クヘシ  
 二(不)項規定ノ黒龍江流域河川定期  
 航門ノ爲メ千九百零九年度ニ於テ政府同  
 汽船會社ニ對シ航海獎勵保護金  
 トシテ國庫ヨリ十一萬二千三百五十圓五  
 十兩ヲ交付スヘシ但シ右八百九十二年  
 四月二十八日(明治二十五年五月十一日)勅  
 裁ヲ經タル同會社ニ支給シ航海獎  
 勵保護金ヲモ含ムヘトス  
 具加爾湖定期航路  
 在浦湖港日本貿易事務館  
 一千九百零八年年度ニ於テ郵便物旅客物  
 送ノ爲メ具加爾湖ニ定期航海開始  
 ノ目的ヲ以テ競賣ノ方法ニ依ラシテ  
 國庫及ヒ地方住民ノ爲メ有利條  
 件ヲ以テ斯業ニ從事シ得ル適當  
 団体若クハ個人ヲ撰ビ之ニ航海獎  
 勵保護金ヲ交付スル爲メ契約ヲ締  
 結シ通信大臣ニ任スルコト  
 一千九百零八年年度ニ於ケル具加爾湖定期  
 汽船航路ノ航海獎勵保護金ハ  
 總額一萬五千圓ヲ起シニカラス  
 口ナ河定期航海  
 一千九百零八年年度ヨリ千九百十七年度ニ至ル



大臣

二一八  
No.  
(平)

次官

林

政務

第四四号

通商

露

露新泰当地新聞社、達シタシ

人事

電報、國民議會、議員、委員、

會計

會、上海浦塩、足規航路、補助

取調

全下附、浦塩、取調、航路、付シ

下ハ下附、カール、コト、ハ、議決セリ

五

総務課 伊山

浦塩 露新泰 甲午年二月廿日 前一二五五  
本指看 左二四

野村領事

3-2059

0183

急

314

明治四十一年六月二十三日 接受

明治四十一年六月二十三日 發浦

明治四十一年六月二十三日 發浦

通商局長 代 閣

主件

第 三 七 號

秋原局長

日本郵船會社 長 丸 倉 田 ( )

上海浦港定期航路之開行

外務省 上海浦港定期航路之開行

外務省

浦船會社 長 丸 倉 田 ( )

浦船會社 長 丸 倉 田 ( )

浦船會社 長 丸 倉 田 ( )

浦船會社 長 丸 倉 田 ( )

記

國民議會豫算委員會上海浦

塩定期航路之補助金ヲ下付シ浦塩

3-2059

0184



明治四十一年六月二十六日發

通商局

(外三号)

文甲第一三〇號

受第一二九〇五號

浦塩港に於て其新聞社掲載露都發電  
報、件、有御通牒相蒙、御厚志奉拜  
謝、夫、右、不、取、敢、行、換、摺、申、上、度、如、此、御  
座、美、敬、具

明治四十一年六月廿五日



大阪商船株式會社  
中橋徳五郎

外務省通商局長萩原守一殿

214

明治四十一年七月一日

大阪商船株式會社

3-2059

0186



明治四十一年六月二十二日

警通商局

本

公第一九四號

彼得大帝湾内航海ニ関スル件

通商景集

多岐の

114

沿海州沿岸航海ノ義ニ關シテハ去ル年三月十三日公才一七番ヲ以テ本報告置外海高工務省ハ從來彼得大帝湾内沿岸ノ航海ヲ当地ニシテ船會社ニ命シ居リタルモ其營業成績面白カラス依ツテ今般同省ハカイゼリシテ伯ト契約ヲ締結シ彼得大帝湾内沿岸定期航海ヲ左ノ通り三種ノ規定ニ繼續セシムルコトナセリ

一、浦添「スラウイヤンカ」ホシエツト諸港

在浦添港日本貿易事務館

百一回ニ回ノ航路

(一) 浦添「モングカイ」セゲミ諸港百一回ニ回ノ航路

(二) 浦添「シトウオ」コシガウス諸港百一回ニ回ノ航路

(三) 浦添「ウラシゲリ」湾向一回二回ノ航路

但「アブレ」カイタマノ諸港寄港

二、浦添「オリガ」湾向一回二回航路

但途中「アスコ」島「スズヘ」ナレ

オブラジエニエ「ワレンケン」湾

エヴスタフイヤ湾ニ寄港



<p>三、浦潮 アイムペラトルスカヤ湾向二十日      百と毎一回ノ航路      但途中聖オリガウツズウシケケ      エチハゴダギートト及「グロセウイカ      湾ノ寄港</p>	<p>ケイセルリング泊ハ本月六日ヨリ航船シビ      一リシ号ヲ使用シ浦潮「ナホドカ」向及ヒ      浦潮「ボシエツト」向郵便旅客貨物等      送ノ為ニ左記臨時表着表依リ航路      ヲ開始セリ</p>	<p>一、浦潮「ナホドカ」線ハ浦潮ヲ基      点トシテ一週二回毎大曜日午後      三時及毎土曜日午前八時浦潮      出帆途中「アブレシク」ガ「ジマ」      「ランゲリ」ケ湾ノ寄港航シ「ナホドカ」      ニ至ル</p>	<p>又逆航一週二回毎水曜日午前      十時及毎日曜日午前七時「ナホド      カ」出帆「カイタマ」シ「アブレク」      航浦潮ニ至ル</p>	<p>二、浦潮「ボシエツト」線ハ浦潮ヲ基      点トシテ一週二回即チ毎月曜日本      曜日午前七時三十分浦潮出帆航      シ「エツト」ニ至リ逆航一週二回毎大      曜日金曜日午前六時三十分浦      シ「エツト」出帆浦潮ニ至ル</p>
--	--	--	--	--

在浦潮港日本貿易事務館



右条考ニ及後若ク致具

明治四十一年六月十六日

領事 野村基信

外務大臣伯爵林董殿

在浦潮港日本貿易事務館

3-2059

0189

文書課

明治四十一年七月一日

浄書部

明治四十一年七月一日  
同日發遣

主件

通商局長

第 二〇八 號

ニ抄呈ス

通商局長

彼得大帝海軍由航海家...

先帝の御意...

外務省

彼得大帝海軍由航海家...

この由り...

知事有...

出願...

第 二〇八 號

明治四十一年七月一日

3-2059

0190

大臣官報

大臣 官報 No. (平) 二七二

次官 作

第一〇三号

林外務大臣

陸代理大使

明治三十二年三月廿八日

露新泰 本有看 四年三月廿八日前三

政務

通商

官報告書

人事

取調

大月官報掲載

益

甲

新

通商 招標 四拾 三

益

昨日下院、於義勇艦隊ノ東  
洋航路ニ對シテ定期航海補助  
問題ノ議事アリ就中浦塩敷  
顧問ノ定期航海補助ノ旨ニ  
ハ大ニ反對説アリシニ終句議合  
ハ右補助法案ノ可決シタリ可決  
案ニ依リハ浦塩ト日清韓諸港間

下海豊

ノ補助ハ十一ノ年ニ直リニ百十萬五  
千ノルカニ浦塩ニコライラスク線ハ滿  
一年間ニシテ七萬五千ノルナリハ  
細郵便

海軍省 第四十一年三月廿七日  
本省着 四月廿七日以前

林外務大臣 庚代理大使

第一〇三号

昨日下院、於義勇艦隊、東  
洋航路、対スル是明航海補助  
問題、議事アリ就中浦塩敷  
質問、是明航海補助、同  
大、及対説アリ之其向議會  
ハ不補助法案ヲ可決シテリ可決  
量、依レハ浦塩ト日清韓話港間

補助ハ十一年ニ直リ二百十萬五  
千ニナル浦塩ニシテ一ニミク線ハ滿  
一年間、一七萬五千ニナルナリ  
細野 恒

大正十一年三月廿七日

17

要再四

明治四十一年六月二十九日

秘密第二五

七

市

義勇艦隊敷賀航路補助金  
竣工ニ關スル件

数日前露都表者旭半官校ゾーリ  
ニ、ウオストーリニ新聞社ニ達シタル電報  
ニ據ルハ露國々民議會會議豫算委員會  
ハ露國義勇艦隊上海浦潮百定期  
航路ニ對シ補助金ヲ下付シ浦潮敷賀  
百航路ニ對シシテ下付セザルコトヲ議決セルガ  
趣ニ取敢本府ニ下付セザルコトヲ  
及電報置タル(右上海敷賀西定期  
航路補助金下付ノ期限ハ本年六月

在浦潮港日本貿易事務館

十五日(我六月廿八日)ニテ満了スル若シカ本  
年度命令航路ノ義勇艦隊ニ對シテ未タ露  
國政府ヨリ義勇艦隊ニ對シ何等命令  
令事々又客年十一月中義勇艦隊ハ  
其筋ノ許ヲ得テ露國東亞汽船會  
社ヲ以テ自己ノ營業代理人ト定メ浦潮  
敷賀及浦潮上海百航路ニ關スル  
一切ノ業務ヲ同會社ニ委任シタルカ之  
レ亦該命令航路補助期限ノ終  
了ト共ニ自然消滅スルコト都令者  
此後未上海敷賀兩航路中上海航  
路ノ旅客貨物何レモ多ク本府ノ利益ヲ  
收得シ来ルモ敷賀航路ニ至ツテハ大坂

154/編

商船会社鳳山丸ノ為メ旅客貨物ヲ取扱  
セシ一週二回ノ航路ハ何時モ旅客貨物  
至ラザリナリ若シ兩者ヲ比較スルニ於テハ大坂  
商船旅客六ニ對スル義勇艦隊四全貨  
物七ニ對スル三ノ割合ニシテ後者ノ營業成  
績甚々靡トシテ振ハカク以テ往來露國  
當局若シハ上海航路ハ其後繼續シ敷  
賀航路ノ補助金ハ向後下付中止スヘ  
シトノ問題ハ屢々提出セラレタル越ナルモ義  
勇艦隊側ニアツテハ從前通り繼續スル  
コトヲ露京ニ於テ若シ運動シ居ル由ニテ義  
勇艦隊側一部ノ人士ハ目下上海航  
路ニ使用スルモンゴリヤノ号若シハ同型ノ

在浦潮港日本貿易事務館

快速汽船ヲ敷賀航路ニ充テ一週二回ノ  
定期航路ヲ繼續スルニ條件ノ下ニ諒  
航路補助金下付方ヲ其補助ニ請テ  
スモトノ意見ノモモ有之ルヤコト及  
其未タ諒航路補助金廢止ノ義ニ開  
テ所務ノ如ク義勇艦隊ハ今日マテ何等ノ  
命令ニ接セザル越テ浦々畢竟國民  
議會豫算委員會ニ於テハ浦敷航路  
ノ現状不利ナルヲ云リ之レカ補助廢止セ  
ントスル意見多ク在ラシモ今更ニ後議  
案ノ本會議事ニ於テ議院ノ議事ニ由ル  
曉ニハ自然浦敷航路ヲ廢止スルカ如ク  
コトハ恐リ之レナカハ唯往來使用ノ二隻



ラ減シテ一隻トナスカ如キコトハ有リ得ヘキ事

カト存セラルル

右及被答ハ敬具

明治四十一年六月廿五

左浦

領事 野村基信



外務大臣伯爵野村基信殿

在浦潮港日本貿易事務館



14  
2

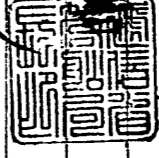
明治四十一年七月二日  
三三三六八

通信省管船局長内田嘉

外務省通商局長蘇宗守一殿

露國義勇艦隊東洋航路補助案同  
閣下有之航路可決ニ速ニ新聲紙ニ記  
載有之航路ニ右事ニ有之其  
航路寄港地ニ補海度敷其他政府  
補助金額等取  
調回報相煩ハレ度此段及御依頼  
矣

右ハ官印未付前ノ三ツク止付  
シ中送シテ但云々付シテ又  
四年一月七日 八日 記



明治四十一年七月六日 受

三三二一號

三三二一號

三三二一號

露國義勇艦隊浦港敷賞百  
航路補助金開元件

露國義勇艦隊浦港敷賞百航  
路ニ對スル補助金廢止云々ノ旨  
シテハ六月廿五日付機密第二五  
號ヲ以テ不取敢及報告置矣  
其後更ニ当地新聞ニ揭載スル  
露國議會會議事録ニ據ルニ  
右ノ浦港上海百航路同様浦  
港敷賞百航路ニ對シテモ同  
レノ國庫ヨリ補助金ヲ支出ス  
ル事ニ決議シ且露國新聞社  
ハ達シタル航路補助廢止ノ  
電報ハ全ク誤報ニ有テ、當日  
新聞ニ於テ、院委員會ニ於テ  
極東ノ航路ニ外國船ヲ使用シ  
ルニ對シテ商務大臣ハ現下、  
露國海運業ハ未ダ全然自國船  
ニシテ充テナリト爲ス能ハ  
ザル旨ヲ説シタル由ニ有テ、  
外爾今浦港敷賞航路ハ從前  
通り一週二回トナスル或ハ  
一週一回ニ減スルカ目下不  
況ニ係スルモ尤ニ南同航路ヲ  
支持スルハ事實ニ有テ右ノ  
事考述申進、

本館浦港日本貿易事務館

明治四十一年七月二日

敬具

受

本

在浦  
領事 野村 堇  


外務大臣 伯耆 林 董 殿

在浦 潮 港 日 本 貿 易 事 務 館

三

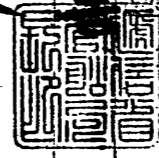
114  
3 19



信

明治四十一年七月廿一日  
管領第 四八

通信省管領長内田嘉吉



外務省通商局長萩原守一殿

回答

本月十四日付送第三七號シ以テ  
送付相成候別紙露國義勇艦隊  
浦潮敦賀問航路補助ニ関ス書類  
及返戻矣

四十一年七月廿五日

印刷工部局製本局

3-2059

0199

明治三十二年七月十九日  
同日  
張方

通商局長

送 二二六 號

非信者

各船長

義勇艦隊敷設航路補助金

廢止之南ニ付

外務省

露國義勇艦隊ノ敷設海潮向航路ニ

對シ補助金下付方廢止ノ議ニ關シ今

般在浦潮帝國領事ヲ別紙寫ノ處ニ

指告及事以付中參事ノ旨及佈告

ナシ奈少查閱古成以女中世也也

(此海潮本信標密印ニ五号寫付付ト)

海軍省

文書部

明治三十一年七月十日

58

海防部 整理

明治三十一年七月十日 同日發行  
同日發行

主任

李

通商局長

三三七 號

通商局長 李

下  
214

露兵勇艦隊浦澎艦隊加久  
官我路初幼金二圓分付

外務省

露兵勇艦隊浦澎艦隊加久  
官我路初幼金二圓分付  
通令般存浦澎音念能子  
勅所赴可存以定之方有在茲  
二使若殿之來者用海防兵以返  
片兵年及幼幼方也  
(公分三三三) 官我路初幼金二圓分付



大臣 乙ノ  
2586  
No. 平

次官

○政務

通商

人事

會計

取調

寺内お始大出

落合代理大使

支那郵政四十二年七月十日午後三時廿五分  
十月十日午後七時五分

支那郵政一三三号

上院ニ控ル

財政委員会ニテ該案ヲ否決セシメ

七月十六日日本會議ニテ該案下院ヨリ

送付ノ快通留セリ右討議中大藏大

臣 Kokeutschang 氏ニ交通連絡ノ必要ナルコ

トラ稀ニテ後藤進信大臣ノ電報ヲ議

場ニテ讀上ケタリ

四十二年七月十日 支那郵政  
義勇隊隊東洋艦 空如航海補助隊 隊員

支那



支那の  
航路

支那の航路

支那の航路

支那の航路

及信託金款、買入件

露西政府の暴行、極東に於ける航路の維持、  
その目的は、保護金を支出、法案の議定、  
提出し上下両院の通過し、今九月八年七月十九  
日(新暦)勅裁を経るに及ぶ、其程公布せり  
即ち左の如し

分、政府は、今九月八年六月一日より起算し  
向う十年間、元配の航路の維持を以て、  
露艦隊の契約の締結を

在外公館

(三) 南滿洲及上海間、西貢、定期航路

但し、奉天及大連、青島、  
右航路に於ける露艦隊の速力十四節  
より速かる、且つ、西貢、暹羅、十六節より速  
カラサ、速力有るに、其の速力、但し、契約期  
間、向う十年間、西貢航路に於ける速力  
より速かる、航路に於ける速力、  
前航路に於ける速力より速かる、  
其の速力、補助金を支出し、其の速力、  
空しくなるに如し

一九〇八年	二八三、三三三	留
一九〇九年	八〇〇、〇〇〇	留
一九一〇年	六九三、〇〇〇	留

一九一一年	六七二、九九〇留
一九一二年	六五一、〇〇〇留
一九一三年	六三〇、〇〇〇留
一九一四年	六〇九、〇〇〇留
一九一五年	五八八、〇〇〇留
一九一六年	五七七、〇〇〇留
一九一七年	五四六、〇〇〇留
一九一八年	五二五、〇〇〇留
一九一九年	五〇〇、〇〇〇留

分三政府、一九〇八年六月三日、ハロウ、北莫、向  
 一九〇九年同九、航路、維持、お、新、船  
 隊、英、約、停、修、人

在 外 公 館

但、ス、ハ、聖、オ、ル、カ、湾、コ、ル、カ、コ、フ、ス、ク、ハ、  
 ン、ハ、ベ、リ、ト、ン、湾、パ、レ、キ、カ、レ、ド、ル、港、デ、カ、ス、ト、ン  
 湾、著、高、港、ノ、ユ、ト

右航路、維持、お、ハ、力、所、庫、ヲ、七、万、五、千、留  
 之、出、之、但、此、契、約、期、限、ハ、千、九、百、一、十、年、下、半、ニ、至  
 ハ、リ、マ、ス、千、九、百、一、十、年、二、月、二、十、日、ニ、至、リ、マ、ス、本、年、  
 内、三、万、五、千、留、未、年、に、於、テ、五、万、留、ヲ、出、出、ス

因、記、入、義、務、航、路、に、於、テ、ハ、亦、存、在、航、路、  
 使、用、ス、ル、目、的、に、以、テ、目、下、五、隻、の、船、船、ヲ、購、入、ス  
 之、に、新、造、ノ、計、画、中、ナ、リ、ト、ス、  
 右、及、報、告、ノ、具、  
 明治三十四年九月九日

在才元カ日本領事館  
副領事 福田道彦

外務大臣の爵少将 印

在外公館

3-2059

0205

第 14 号

明治四十一年十月二十七日

明治四十一年十月廿六日  
同 年 一 月 廿七 日 發 遣

明治四十一年十月二十七日

主任

別紙

淨書 校正

通商局長代

送第 四〇三 號

通商局長代

管船局長宛

極東に於ては義勇船隊の命令

航路及保護金額に累元件

明治四十一年十月二十八日

外務省

別紙供賞覽候條用濟次第御返戻相成度候也

送第 四〇三 號

X 14  
2



明治四十一年十一月七號

主管通商局



通信省

第六九〇號

受第ニシ〇シ九

通信省管船局長白嘉吉



外務省通商局長萩原守一殿

十月二十七日付送第四日三辨ヲ以テ  
船隊送付相成候別紙露國義勇  
隊航路補助契約ニ関スル書類  
用濟ニ付及返戻書也

西曆十一月九日録別紙

印刷場工限種郵政省付印

3-2059

0207

明治四十一年八月三日附

陸軍省

（公第三四〇號）

樞東航路補助案ニ関スル件

陸軍省第一〇六一九號

海軍省  
通商課  
百三十二

通商課  
百三十二

樞東航路補助案ニ関スル件  
 樞東航路補助案ハ全議會ニ於テ小數ノ差  
 ラ以テ採用セラルカ其後七月十六日上院  
 議事ニ於テ財政委員代表者ハ若シ該  
 航路ノ保護ハ吾國ノ貿易上重要視スベキ  
 モニアラスト論述シ高工務大臣ハシイホフ代  
 ハ該法案採用ノ必要ヲ説以シ海路交  
 通ノ便ハ商工業的ニ國家的重大ノ意  
 味ヲ有スルモノニシテ之ヲ持續スルハ素ヨリ甚  
 ラナル補助金ヲ要ス若シ夫レ該法案ニシテ  
 採用セラルハニ至ラスニハ今ヤ漸ク活潑ニ  
 ニ向ハントスル樞東地方ヲ荒廢地トシテ終ラ  
 シムヘク且ツ露領樞東地方ニ於ケル露國民  
 ノ奮闘心ヲ打破スルニ至ルヘント述ヘ又大藏  
 大臣ハコソフオフト代ハ該法案タル西比利  
 大鐵道ト接續スル世界的交通トノ大向  
 題ニシテ決シテ著闊視スヘカランモノナリ該航路  
 ノ繼續ハ正ニ世界的交通機關ノ運轉ト  
 相スルモ此言ニ依ラズ或ハ吾國カ該航路ヲ  
 繼續スルトニ依リテ經濟上何等利益スル  
 所ナリ却テ失フ所多ク國家的經濟政  
 策ニアラスト論スルモノアラモ之レ未ク其一ヲ知フ  
 テニヲ知ラザルモノナリ蓋シ該航路ヲ廢止セバ比

明治四十一年八月廿四日

在浦潮港日本貿易事務館

事實の  
 百六十一

較的有利條件ヲ得シ得ヘキ萬國邦  
 便物料金ヲ收得スヘキ利益ヲモ放棄ス  
 ル可ラス西比利大鐵道ノ終局ト日清兩國  
 ノ各港トヲ接續スル航路ノ廢止ハ是等兩國  
 ノ各港ニ送達スル便物料金ノ大虧分  
 ノ外國汽船ニ讓與スルモノ外ナラスト東清  
 鐵道ニ依リ浦海港ヲ經由スヘキ旅客貨  
 物ヲ哈爾濱ヨリ南下シ大連港ニ吸收云  
 々ノ間ニ大藏大臣ハ今固南滿鐵道總  
 裁ヨリ迎信大臣ニ委任セラル後交男爵  
 露京師在任中男爵ト東清鐵道  
 烏蘇里鐵道及南滿洲鐵道諸線  
 三對シ公平ニシテ且ツ正當ナル運賃率ノ悞  
 在浦潮港日本貿易事務館  
 南滿洲鐵道ハメリカニテ諷悞商ノ精神  
 タン浦潮大連ノ兩立ヲ趣旨トスルニシテコ  
 コヲオフレ大藏大臣ハ後交男爵ノ通信大  
 臣ニ委任セラル且ツ其露京師在任中ニ於ケン  
 悞商ノ精神ヲ繼續シラレシコトヲ希望スル旨  
 今親全男爵ヨリ電報ヲ接手セリトテ其電  
 文ヲ朗讀シ大藏大臣ハ再々極東航路補  
 助ノ國家的問題タルトヲ指摘シ最後ニ日  
 本海々止ニハ永久露國々旗ヲ翻スヘキコトヲ  
 必要トシ且ツ初ノ平和的ニ投資ニ後手平和的  
 ニ其利益ヲ回收スヘシト述ヘ國家的經濟  
 政策トシテハ將來回收ノ見込ニ投資的  
 事業ヲ躊躇スルノ必要ナキト論決シタルカ





文書目録

明治四十一年八月廿一日接寄

25

明治四十一年八月十九日  
同 年 八 月 廿 九 日 發 出

逓信局長 宛

本

海軍省 宛

奉書

三浦 達

野村 銀次

本

奉書

相模航路船務株式會社 宛

相模航路船務株式會社 宛

二四〇号 奉書 宛

外務省

相模航路船務株式會社 宛

ト東清鐵道の島嶼中修了の南滿

支那の汽船 宛

東清鐵道の島嶼中修了の南滿

支那の汽船 宛

ト東清鐵道の島嶼中修了の南滿

支那の汽船 宛

ト東清鐵道の島嶼中修了の南滿





答復名表  
大坂商船会社  
新開船載

通商  
指  
年  
年

通商  
指  
年  
年



百七十一  
直

明治四十一年八月二十四日發受

主管通商

五

公第二七三

一七〇九二

浦潮港ト敷賀長崎西港接續  
件

歐路最近ノ較道ニ據ルハ露國各者特別  
會議ハ露國鐵道ニ依リテ浦潮港ヲ經由シ  
敷賀及長崎ニ向テ旅客貨物輸送ノ爲  
ノ露國鐵道ト日本ノ汽船會社トノ連  
絡ヲ保ツシムヘキトテ決議セリトコトナリカ現  
浦潮港ニ於テハ一七〇九年七百五ノ航海補  
助金ヲ得ツ、アレ露國義勇艦隊外ハ露  
國東亞汽船會社、北方汽船會社、日本  
郵船會社及大坂商船會社、五汽船會社  
アリテ各港ト東洋諸港百接續、任ニ當リ而  
シ從來露國汽船會社カ海陸交通接續  
ノ衝ニ當リシ場合ニハ外國汽船會社ニミテ之  
對シ競争ノ位置ニ立テシムルカ、コトハ曾ラ之レナ  
カリシニ、今露國當局者カ日本、一汽船會社  
ヲシラ、各港敷賀并長崎、百海陸連絡上、  
利益ヲ得セシムルハ兩國々交ノ如クモ、國端  
ニシテ其ノ貿易航海ト及カスヘキ至大ノ影響  
アルヲ看取スルニ難カラス、又前記露國東亞汽  
船會社ハ、近々其業務ヲ中止セトスルヤ、夙  
説アリシモ、今其業務ヲ中絶セトスルヤ、利  
益少ナリ、其業務振ハルヲ以テ、將來ノ發展ヲ  
圖ラシカ、爲メ同汽船會社ハ、事務員備人

在浦潮港日本貿易事務館

百七十一

考

<p>等ヲ詢テシテ 右の事考ミテ及 明治十一年八月十九日</p>	<p>左補 領事 野村基信</p>	<p>臨時幕任外務臣子爵野村正毅殿</p>	<p>在浦潮港日本貿易事務館</p>	<p></p>	<p></p>
--	-----------------------	-----------------------	--------------------	---------	---------

3-2059

0214

送第四  
送第三

明治四十一年八月二十七日  
八月廿五日  
日發遣  
山本

通商局

代

主任

送第三〇二號

日弁船長

田島長

船合社長 丸山

南港 船長 長崎 船長 長崎 船長

船長 船長 船長 船長

明治四十一年八月二十七日

外務省

浦上 船長 長崎 船長 長崎 船長

船長 船長 船長 船長 船長

船長

船長

14

10

日本郵船株式会社

本月廿七日送第四三四号ヲ以テ浦潮港ノ敷  
賀長崎兩港ト交通連絡ノ件ニ関スル在  
浦港帝國領事ノ殿ヨリ、御報告御回  
未放下毎、御配慮之段奉謝候旨御  
御挨拶申上儀也

明治四十一年八月廿八日

日本郵船株式会社、長

近藤 康平



外務省

通商局長森永守一殿

3-2059

0216

極東航路補助案の關する件

二九一

一七九二二

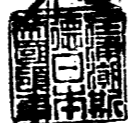
長

九月

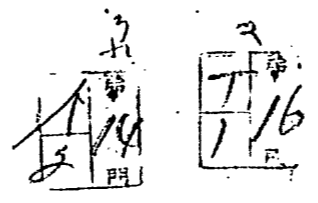
九月二十四日付送才ハ五号ヲ以テ未示  
お事ノ極東航路補助案ニ關スル信  
公才二四〇号被旨中未示各國大臣  
大臣ハ後藤男爵ノ露京本立中同  
男爵ト東清鉄道、烏蘇里鉄道及  
南滿洲鉄道諸線ニ對シ公平ニシテ  
且ツ正當ナル運賃率ノ採南ヲ遂ケルコ  
トヲ求ムベシ云々ハ原文簡單ニシテ詳細  
ノ内容ヲ知悉シ難キモ電報ノ文意ニテハ  
後藤男爵ト露國大臣ノ同本  
問題ニ關スル意見ヲ交換シテ話ヲ  
タルモノニシテ固コリ公然タル採南ヲ遂ケ  
ル趣旨ニ可多ト存セラレシハ右様内  
ちお事度其旨貴答申建テ致具  
明治四十一年九月二日

在浦

領事 野村基信



外務大臣伯爵小村壽太郎殿



明治四十三年一月



通商部  
審判官

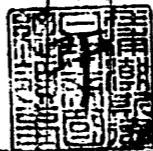


村

明治四十三年一月六日

在浦潮

總領事大島富士太



外務大臣伯西野 小村壽太郎殿

義勇艦隊新造船来着ノ件

報告課長

新造

義勇艦隊力專ニ極東内外諸海港間ノ定期航海ニ使用スル為ノ客年中獨逸「ダンケツ」シハウ」造船所ニ注文シタル五隻ノ汽船ノ内「ホルタ」及「リヨール」二船ハ先般既ニ落成レ一旦露都

在浦潮日本領事館

「同航」上四十五昼夜ヲ経テ客年十二月中旬當港ニ来着シ日下長崎經由當港上海間週一回ノ定期航路ニ從事シ居レリ兩船ハ何レモ新式ノ構造ニシテ装置完備シ速力十五海里登符噸數二十五十九噸一尋船室ハ乘客六十名二尋船室ハ三十名三等船室ハ改四羅巴人及亞細亞人用ラ區別レ通レテ百二十名ヲ收容シ得ヘク外ニ甲板上ニ八百八十名ノ乘客ヲ收容シ得ヘキ船室ヲ装置シ又貯肉用大氷室貨物搭載用トシテ四個ノ船艙ヲ設備シアリ

右「ホルタ」及「リヨール」二隻ハ今後浦潮斯德上海間一週一回ノ定期航路用トシテ専用ス可キ計畫ナルモ一時船艙ノ都合上「リヨール」號ハ敦賀





文書課長 全

明治四十三年一月十七日接受

明治四十三年一月十五日  
日發遣

手用 別紙

簿 本 原 抄

主任

要請書

明治四十三年一月十七日送達  
通商局長

送第一七號

管船局長宛

振京局長

義勇艦隊新造艦三関八件

露国義勇艦隊新造艦三関之在浦潮

序圖編制(別紙)通リ報告致越、

外務省

付片参考迄及片存牒、也

(公文四号与片付)

8/13/14  
29

連南第  
要請書  
尾書

3-2059

0220